

<b>Title</b>	国立公園の起源：国立公園の創設を導いた画家 G. Catlin
<b>Author(s)</b>	村上, 公久
<b>Citation</b>	聖学院大学論叢, 23(1) : 155-167
<b>URL</b>	<a href="http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/repos/modules/xoonips/detail.php?item_id=2245">http://serve.seigakuin-univ.ac.jp/repos/modules/xoonips/detail.php?item_id=2245</a>
<b>Rights</b>	

聖学院学術情報発信システム : SERVE

SEigakuin Repository for academic archiVE

〈原著論文〉

## 国立公園の起源

——国立公園の創設を導いた画家 G. Catlin——

村上 公久

On the Origin of The National Park: The Painter Who Conceived the Idea

Kimihisa MURAKAMI

It is not well-known that a painter advocated the idea of a 'Nation's Park' in 1832 and his vision resulted in the concept and foundation of national parks as we know them today. The first person generally credited now with conceptualizing a "national park" was George Catlin (1796-1872), a self-taught artist who traveled extensively among the native peoples of North America while sketching and painting portraits, landscapes, and scenes from daily Indian life. On a trip to the Dakotas in 1832, he worried about the impact of America's westward expansion on Indian civilization, wildlife, and wilderness. They might be preserved, he wrote, "by some great protecting policy of government . . . in a magnificent park . . . . A nation's park, containing man and beast, in all the wild and freshness of their nature's beauty!"

Hidden in the shadow of the more famous John Muir, the "Father of American National Parks", George Catlin has not been highly regarded, but his original idea of a national park is the source of conservation of wilderness together with the idea of lifestyle and culture being fostered and developed in the arms of Mother Nature. The national parks embody a radical idea, as uniquely American as the Declaration of Independence, born in the United States nearly a century after its conception. It is a truly democratic idea that the magnificent natural wonders of the land should be available not to a privileged few, but to everyone.

---

**Key words;** Nation's park, national park, the idea of a national park, George Catlin

**Key words;** 国立公園, 国立公園の起源, 国立公園の構想, ナショナル・パーク, ジョージ・カトリン

## 1. 国立公園の起源と G. Catlin

National Park「国立公園」の制度は我が国を含め全世界に展開しており、南北アメリカ27カ国、アジア17カ国、オセアニア5カ国、ヨーロッパ36カ国（ヨーロッパ国立公園連盟 EUROPARC 加盟国）、アフリカ26カ国、に国法に制定した国立公園制度に基づいて管理運営される「国立公園」が存在する。現在、世界各地にある国立公園は約7000を数える（IUCN 2010）が、これらの「国立公園」とその制度の起源は、一人のアメリカ人画家ジョージ・カトリン George Catlin の着想から始まる。

自然保護・環境保全に関して単に一国の制度の事例として検討するのではなく、普遍的な価値を持つ社会制度 institution としてのアメリカ合衆国の「国立公園制度」について考察することは「環境の時代」にあって重要な試みである。

アメリカ合衆国における「国立公園制度」に先立つ、最初の連邦政府（中央政府）による自然保護を目的とした法による国有地の指定については、筆者は先に

「英海軍と新大陸の森林 —独立戦争前期の森林資源争奪—」

British Royal Navy and Forest Resources in New England

—Forest Resources Development in New England and Naval Timber Reserves—

（聖学院大学論叢 vol. 15—No. 2, 2003年）において1817年にアメリカ合衆国海軍が軍艦建造に必要な広葉樹の木材を確保するために創設した連邦政府「保全林」が、同国の「自然保護区」の起源であることを示した。

筆者はその際、アメリカ独立戦争前後期の森林・林政史の学びの中でアメリカ合衆国の国有林、現在の US National Forest 制度の起源が米国海軍の創設に関係していることを知った。合衆国の独立期、列強の海軍力に対抗するための海軍軍艦（木造戦艦）の建造に必要な良質の木材を確保するために最初の連邦保全林が設定されたのであり、これが現在のアメリカ合衆国国有林 US National Forest の起源である。連邦議会は1799年に将来の海軍軍艦建造の資材を確保するため、林地と林木の購入に20万ドルの支出を認めた。この18年後の1817年には、連邦議会は大統領の承認の許にカシ類の立木とベイスギ red cedar *Juniperus virginiana*（ビャクシンの一種）のある林地を、売却から防ぎ合衆国海軍に供給する事を唯一の目的として、海軍長官に付託している。その後、軍艦建材のための森林保全を巡っては紆余曲折があるが、1850年代に鉄鋼船が出現して造船事情が一変するまで、合衆国海軍が「森林を無秩序な伐採から防ぐ」国有林制度の起源に直接に関与していたのである。そしてこれが同国の森林の保全、さらに後の時代の森林のみならず自然保護・環境保全の創始となったのである。

アメリカ合衆国の連邦政府による公的な自然保護・環境保全について、この国有林 US Forest service の起源である連邦保全林の設定に次いで、歴史に登場するのが1832年のG. Catlinのアメリカ合衆国の「国の（国家と国民の）公園」nation's park（国立公園 national park）である。では、このアメリカ合衆国の「国立公園制度」は何時、どのようにして始まったのであろうか。

未知の、あるいは未だ十分に理解していない問題や事柄に近づく方法は二つある。一つは発生論的接近 genetic approach であり、もう一つは機能論的接近 functional approach である。前者はその事の発生の次第を明らかにしてさらにその後の発生論的な連続を辿ることによってその問題や事柄をよく理解しようとするアプローチであり、後者はその事が他の関連する事々々どのように関わっているかという関数的 functional 関係を把握しようとすることによってその事柄をよく理解しようとする方法である。

「ある事柄についてよく知りたければ、それは『なぜ、どのようにして始まったか』という誕生の物語を知れば良い。」アンリ・ポアンカレのこの言葉は、genetic approach の有効性を的確に示している。

本稿は国立公園について発生論的接近 genetic approach によって理解しようとする試みであり、世界最初の国立公園の誕生の次第を理解することによって「国立公園とは何か」をよく知り考えようとする試論である。

## 2. はじめに一アメリカ最大の資産「国立公園」制度一

「国立公園」と「総合大学」は、アメリカの資産である。アメリカは今なお豊かな国であり多くの資源と富があるが、アメリカが世界に誇ることが出来る世界の他の国々や地域には類を見ない、そして各国がアメリカから学んで自国へと導入してきた、アメリカの独自の文化が育ててきた資産が二つある。それらは「国立公園」と「総合大学」である。アメリカ文明の大きな源流となっているヨーロッパにも「公園」と「大学」はあった。しかし、人為による自然破壊がおよぶ前に国家によって大自然の一部を法制度の保護で包んで未来の国民へと「手付かずの自然」を継承する「国立公園」制度 National Park System、そして教育と研究を広範な領域に展開して外部の諸機関・組織また個人に研究と教育の結果をもって貢献しさらに学外の一般の市民へ良質の教育を多様な形で提供する「アメリカの総合大学」は、今後と同国がさまざまに変遷することがあってもなお高い価値をもつ世界に冠たるアメリカ合衆国が生み出した社会制度 institution である。

文字通りの世界最初の国立公園である1872年に創設されたイエロー・ストーン国立公園を始め

として8千4百万エーカーに及ぶ原自然、史跡、景勝、野生動植物区が連邦政府によって保護区とされ、内務省国立公園局によって保全管理され、注意深い配慮と規制の下に公開されている。

## 2-1. 「国立公園」構想の先駆者たちと「国立公園の父」ミューア John Muir

G. Catlin の「国の公園」の提唱に先立って英国の著名な詩人 William Wordsworth は、1810年に湖水地方への旅を著す中で「(湖水地方は)ある種の国の資産として、誰もが享受できる保全された自然として護るべきである」旨を書き残し公的に指定した特定の地域を保全する必要を唱えている。これは後に Catlin が構想する「国(国家と国民)の資産」としての保護・保全区の設定に類似する提唱である。

また、Catlin が「国の公園」構想を著した1832年と同年に誕生した第12代スウェーデン科学アカデミー議長であり国会議員も務めた、北極圏の探検で著名なフィンランド生まれの Adolf Erik Nordenskiöld 男爵(1832-1901)は、G. Catlin の提唱の約半世紀後の1880年に、Catlin の着想に近い提案をしている。これらの両名は「国立公園」構想の先駆者と言うべきであろう。

これまでアメリカ合衆国の国立公園の起源について論じられる時は、先ず決まって「国立公園の父」ミューア John Muir が紹介される。国立公園について議論される際は、特にその起源について議論される時には決まって Muir の功績が言及される。自然保護の理念は、このスコットランド系のアメリカ人 Muir に始まると言っても過言ではないだろう。しかし、Muir 以前に George Catlin が国立公園の創設を提唱していたこと即ち、「アメリカの国立公園(国民が共有する公園)」の起源が一人の画家の着想であったことは、近年まで忘れられていた。

## 2-2. G. Catlin 「国立公園」の創設を導いた画家

### 画家ジョージ・カトリン George Catlin について

George Catlin は、1796年7月26日ペンシルヴァニア州 ウィルキスバレで生まれ、1872年12月23日ニュー・ジャージー州 ジャージー・シティで死んだ。彼の生涯を略述すれば、以下のようになる。

コネチカット州リッチフィールドで法学を修めた後、法律事務所を営んだが1823年に独学で身につけた絵画へ転向し、細密画を得意とし肖像画を多く描いた。少年時代よりアメリカ先住民(アメリカン・インディアン)の生活に強い興味を持っていたが、1829年、当時西部開拓により急速に消滅しつつあった彼らのライフ・スタイルを記録しておくことを決断しフロンティアに出て行き、中部平原地帯で多くの部族を訪問し500以上の絵を描き記録を残した。1837~1845年にアメリカ国内およびヨーロッパで個展を開き、画集・文集を出版。1852~1857年に中・南米を旅し、スケッチ類を加えた。カトリンの死後1879年にスミソニアン・インスティテュートが彼のコレクションを取得した。数多くの絵画、スケッチと共に著作もある。

アメリカでは、美術史の分野でアメリカ先住民を絵画により記録した画家としてその分野の専門家などに知られているが、「国立公園の提唱者」としては、あまり知られていない。彼の Nation's Park（国の・国民の公園）というコンセプトは現代の問題意識を先取りした極めて先駆的なものである。

### 「国立公園」創設の背景

#### —若い国アメリカのアイデンティティーとしての大自然—

苦しい対英独立戦争に勝利した若い近代国家アメリカの指導者たちは、成立したばかりの国家が世界に向かって誇れるもの、特に旧宗主国である英国を含むヨーロッパの国々に向かって誇ることが出来る「新大陸アメリカのアイデンティティー」を強く求めていた。新大陸を訪問したヨーロッパ人に共通する感想は「アメリカにはシェークスピアもない。バッハもない。絵画も建築物も見べきものがない。あるのはただ野蛮だけである。」といった見下した評価であった。（The Times 訪米紀行の記事等）カトリンは人工の文明の成果ではなく、アメリカの大自然こそが彼らの新しい国のかけがえのない天賦の富であることに気付いていた。そしてその壮大な自然に溢れるアメリカで自然破壊が既に始まっていた。カトリンは中西部への旅で、白人による凄まじい先住民族と野生生物への無用の殺戮を各地で目撃し、文明による「破壊」と文明人の罪の深さにおののいた。

中西部への8年間に亘る長い旅から東部へ戻ったカトリン、また政府派遣西部探検隊に同行した画家モラーンらの絵画は、壮大で美しい西部の原自然をみごとに描き出し、国立公園制度の創設を導く重要な役割を果たした。1832年のカトリンの提案 Nation's Park は40年後に National Park として実現した。1872年ユリシーズ・グラント大統領の署名により国立公園法が制定され、世界最初の国立公園イエロー・ストーンが誕生した。現在アメリカ国内に369箇所の国立公園が制定されて、原自然と野生生物を含む生態、景観の保全が図られている。この偉業の始めに一人の画家がいたことが忘れられている。

#### G. Catlin 自身のエッセイ Nation's Park（「国（国家と国民）の公園」の着想

1832年から1839年までの8年間の中西部への旅の途上での見聞と Catlin 自身の考察を記述した *Letters and Notes on the Manners, Customs, and Condition of the North American Indians*\* の中で、アメリカ先住民の部族が白人がもたらすウイスキーと交換するためだけにおびたしい頭数の野牛（バッファロー・アメリカ野牛）をなぶり殺しにし皮も肉も捨ててただ舌のみを交易所に持つてくる様を目撃し、野生動物と先住民の暮らしを含めた自然が近未来に消滅することを恐れをもって予感した Catlin が、原自然と人の暮らしを含む風土を保全するために連邦政府による Nation's Park を着想する次第を、以下のように記している。

1832年5月、川の上流に向かっていて私が初めてこの地に到着し、毛皮の交易市場に宿泊した時、……次のような話を耳にした。私が到着する僅か数日前（その時、おびただしい野牛の群れが川の対岸に姿を現し、展開してはるか彼方まで平原の大部分を黒く染めた）正午頃に、馬に乗った500～600人のスー族の集団が渡河した。彼らは野牛の群れの中を数時間駆け巡って、日没に再び川を渡って戻ってきた。彼らは1,400もの新鮮な野牛の舌を交易市場に持ち込み、それらをまとめて投げ降ろした。彼らはそれでわずか数ガロンのウイスキーを手に入れ、小さな放蕩的な宴会を催した。酒は瞬間に尽きてしまった。

この高貴で有益な動物の生命をこのようにしてただなぶり殺しにしてしまう悪徳の乱獲は、私が知る限り、ただ殺す楽しみが目的でその皮も1ポンドの肉も持ち帰らないのだから（舌を除いてだが）、これは一見途方もない予測に思えるかもしれないが、私はこの事態が進めば間違いなく野牛の絶滅が間近に迫ると恐れているのであって、このような事態は私の予測を、十分に裏づけるものである。……

しかし、将来に（連邦政府による適切な大規模な保護政策によって）野牛たちがその純粋な美しさと野生を保ったまま保護されているのを、見る事が出来るかもしれないと我々が思い描くことができるならば（政策によって護られた地域を旅行し、じっくりと自然に親しむことができるならば）、それは何というすばらしい未来像だろうか。野牛たちは壮大な公園の中にいる。その公園の中では、伝統の衣装を身にまとった先住民が、頑丈な弓や楯、槍を手にして、エルク鹿や野牛の素早く移動する群れの間をぬって野生馬を疾走させてやってくる。そのような素晴らしい姿を、世界の人々はその時から先長きにわたって、この国の洗練された市民と世界の人々が観ることが出来る。これは何と美しく、また興奮を覚える様であろうか！ その中では人間と野生動物が、その生まれ持った美しさと野生性と新鮮さを保ったまま暮らしている、Nation's Park 国と国民の公園！

私はただそのような保護区の提唱者でありたいとのみ願っているのであって、将来に私を称える記念碑が建てられたり著名人のリストに名が記されたりすることなどは、望外なのである。

上記の引用\*の骨子の部分は、原文では“by some great protecting policy of government... in a magnificent park... **A nation's park**, containing man and beast, in all the wild and freshness of their nature's beauty!”（太字は筆者）であるが、これがアメリカ合衆国の国立公園の起源であり、世界中の国立公園の起源となった理念なのである。

上文中、括弧内（……）は筆者

\* Catlin, George. *Letters and Notes on the Manners, Customs, and Condition of the North American Indians*, 2 vols. London, 1841; Reprint, Minneapolis, 1973.

Catlin は中部平原を旅したこの8年間に、西部開拓のインパクトが原自然に及んでゆくのを目撃し、やがて人と暮らしの場である自然 nature がそれらを包みこんでいる原自然 wilderness と共に減びてゆくことを予見し、恐れていた。この深く極まった Catlin の危惧が Nation's Park を着想するに至った所以である。

### 3. Catlin の着想の意義—カトリンの構想の今日的意義—

Catlin が「国（国家と国民）の公園」を着想した時代背景について

—Man-in-Nature が Man-over-Nature へと変わってゆく時期—

先ず「ヒトと自然との関わり」の観点から、時代区分を試み Catlin が「国（国家と国民）の公園」を着想した時代背景について考える。

ヒトの出現以前の世界や、ヒトが未だその足を踏み入れている手つかずの自然を「原自然」と呼ぶことにする（wilderness ウィルダネスという語に対応する）。ヒトが現われて、その活動が及び始めたが未だ人為が強く影響を与えていない部分を「自然」（nature）と呼ぶ。やがて自然の中でヒトが暮らし始め、さらには道具を使うなどしてヒトが強く自然と関わり始めると、ヒトにとってその自然は「環境」（environment）へと変質する。つまり、ヒトの登場によって原自然が自然になり、文明を持ったヒトの動物以上の生活が始まるとヒトにとって自然が環境となる。

人類の歩みを、どのように自然と関わってきたかを Florence Klachholn の試論を援用して観ると

A：nature-over-man（自然が、未文明の人間を支配）over は、支配関係

B：man-over-nature（人間が、文明によって自然を支配）

C：man-in-nature（自然の中に共生している人間）

の3つの型（段階、時代）に分類することができる。Aの段階にとどまっていた頃、動物の一種であったヒトは「川原に生える一本の葦」のように弱く、大自然の脅威の下で辛うじて生きていたが、やがてこの「考える葦」は、火と道具を用い技術を発達させながら自然を制御し始め、文明を興しやがて科学技術を駆使して自然を支配し始めBの段階へと進んで行く。これまでのところAを脱してBに向かいさらにBを推し進めることが、すばらしい「進歩・発展」だった。「人類の歴史とは」と問われれば、「AからBに向かう歩み」と答えてもよいだろう。しかし今、その過程で環境問題が起こり人類が苦しんでいる。人類は文明によって自然を支配し man-over-nature を達成した。悲劇的なことに、達成した途端、人類は環境問題つまり生命環境の急激な劣化を引き起こしてしまい、他の生物種を巻き込んで滅びようとしている。世界で最初にAを脱してBに向かったのは、近代科学・技術文明を帯びて資本主義的發展を達成しつつあったアメリカ合衆国だった。Catlin が大平原で目撃した自然破壊の悲惨は、彼の国がAを脱してBに向かい始める近代化の予兆だった。



「原自然」の中に登場したヒトはその賢さによって「自然」を「環境」へと変えてゆき環境問題を起こした。現在「地球環境問題」を巡って最大のディレンマは「開発か環境か」の対立である。つまり、生きてゆくために「破壊・掠奪」(destruction, abuse)する立場と「保護」(protection, preservation)の立場の激しい対立・対決である。人間の「環境管理」の責任はこのふたつの立場の対立に関わるものではなくて、実は第三の立場「保全」(conservation)なのである。地上に(主張する本人を含め)自然を消費して生きるヒトが全くいないかのように「保護」を唱えても解決にはならない。人間の「環境管理」の責任は、破壊と保護、これらのいずれでもなくて生命圏の生態系を育みつつその余剰の生産物をヒトが消費する「保全」の実行にある。

Catlin が西に向かって旅し、保全 conservation の重要性に気付いたのはアメリカ合衆国が、上記の分類の A の段階から B の段階へと向かっていた時期だった。

ところで、上述の C の型の「人間と自然との関係」は、自然か人間かどちらが支配者か、という観方とはまったく違って「共生」の関係を示している。Catlin の「野獣と人が共に……」という提唱は、このスコープの中で観ると極めて先見性に富んだ保全の提唱であったことが判る。

現代の、国際機構、各国、自治体、地域の最大の課題のひとつは「開発か環境か」のディレンマをめぐる合意形成とその妥当性の検討、政策による決断である。これは「地球サミット」(UNCED1992年)のタイトルが「環境と開発に関する国連会議」であったことに象徴的に表れている。経済の維持、成長を求めて「開発」が進むとき、「環境保全」を実現するためには「保護区域」の設定が不可欠である。約180年前に、後に世界一の物質文明を築くアメリカ合衆国にあって、このことの重要性に気づいたカトリンの先見を評価することは、現在の我々の自然観の再検討に大いに資する。また、カトリンの自然観は中西部の旅を通じて得た、アメリカ先住民との深い交流に強い影響を受けている。世界各地またわが国ではアイヌなどの先住民族がその自然観を含む固有の文化と共に消滅しようとしているこの時機に、カトリンの辿った精神世界の旅は、現代人に大きな示唆を与える。

### 国際公園への展望

国立公園の制定による自然保護の実現は、一国内の保護区域の設定という方途によるものである。政治的国境が消滅しつつあり、国民国家が制度疲労によってその機能を失いつつあり、EUのような超国家が実現するグローバリゼーションの時代に地球環境の保全のためには、カトリンの着想をグローバルに展開する「国際公園」の構想とその実現が必須である。

南北問題の構造の中、原自然の大部分は「南」の途上国に主として分布している。「北」の技術、資金を含む国際協力・援助は、またこの世界共通、地球生命圏全体にとって消滅させてはならない原自然のためにも不可欠であり、180年前のひとりの画家の提唱はいま新しいグローバルな意義を

帯びている。

#### 4. 終わりに

筆者は、公務に就いていた時期に国家公務員の留学制度によってアメリカ合衆国ワシントン大学森林資源学部 College of Forest Resources (ワシントン州シアトル市 後に、再生産可能資源学部 College of Renewable Resources と改称) の大学院と連邦政府 (農務省森林庁および内務省地質調査庁) の研究所で学ぶ機会があった。この2年間の国費留学の期間に、始めの頃は専門分野の森林調査のためにワシントン州、オレゴン州、カリフォルニア州の北部の、また国境を北に越えたカナダのブリテッシュ・コロンビア州の国有林に頻繁に入った。ワシントン州内の合衆国森林局 US Forest Service が管理する森林に入ると、国有林の境界を越えて国立公園に分け入ると言うことがよくある。森林保全から発して、総合的な自然の保全に関心が広がり、同州内の北カスケード山脈国立公園とオリムピック国立公園の二つの国立公園に研究調査で頻繁に入った。アメリカの国立公園に入り宿営し諸施設を利用し公園管理官と交流を深めているうちに、国立公園がいかに優れた社会制度 institution であるかを認識するようになっていった。

昨年アメリカで、スポンサーからの金銭の提供を受けないで市民からの寄付によって優良なテレビ番組を放映する PBS, Public Broadcasting Service が、国立公園についての歴史と制度を詳細に紹介するシリーズの特別番組を放映した。その特別番組のシリーズの総タイトルは America's Best Idea であった。第1回は「ラディカルなアイデア国立公園」Introduction: The Radical Idea of a Nation's Park とタイトルを付けて放映された。このタイトルは国立公園がアメリカのベスト・アイデアであり、国立公園の着想、構想、創設、維持発展が、極めてラディカルなアイデアに始まることを良く物語っているが、その創始に画家カトリンがいるのである。

ワシントン特別区にあるスミソニアン・ミュージアム群の中にアメリカ合衆国のナショナル・ギャラリーがある。館内にはそのミュージアムの名称に違わず合衆国の国家と国民にとってのかけがえの無い国の資産と言うべき美術作品、特に絵画が保存され一部が展示公開されている。同館にはジョージ・カトリンのそして彼に因む絵画が展示されている一角が開かれている。その諸作品の中にウィリアム・フィスク William Fisk が1849年に描いたジョージ・カトリンの肖像画がある。この作品はカトリンが55歳のとき彼がアメリカ先住民族 (アメリカン・インディアン) の暮らしと文化をヨーロッパに紹介するためにロンドンに居た時に描かれた作品で、彼はこの頃は既に画家の仕事はしていなかった。しかし、この Fisk が描いたカトリンは左手にパレット右手に絵筆を持ってキャンバスに向かって立っている。絵の中でカトリンは、インディアンや西部開拓にあった白人た

ちが常套していたバックスキンの服を付けインディアンとフロンティアの文化に溶け込んでいる。背景に、暗闇の中に消えてゆくインディアンが薄く描かれている。絵画はカトリンが訴えようとしていたことを、インディアンの暮らしと文化が、そしてそれを包んでいる壮大で美しい原自然が、文明によって破壊されて行くという重い懸念を、描き出している。

この肖像画のカトリンの眼はずっと遙か彼方を見つめている。しかしその視線は当て所もなくさま迷ってはいない。人と風土を含めて自然が保全されることを期して彼が構想し提唱した「国の公園」の実現を強く意欲して、自らのヴィジョンを見つめ続けている。

#### 参考文献

- 村上公久「英海軍と新大陸の森林 —独立戦争前期の森林資源争奪—」British Royal Navy and Forest Resources in New England—Forest Resources Development in New England and Naval Timber Reserves— 聖学院大学論叢 vol. 15—No. 2, 2003年
- 村上公久「環境思想」,『情報教育事典』(3. 社会・生涯学習・環境・哲学・思想 中課題「環境思想」)丸善2008年 pp. 109, 110
- Barriault, Anne B. *Selections: Virginia Museum of Fine Arts*. Richmond: Virginia Museum of Fine Arts, 1997.
- Carr, Carolyn Kinder & Ellen G. Miles. *History, National Portrait Gallery*. Forward by Marc Pachter. With an essay by Margaret C. S. Christman.
- Catlin, George. *Letters and Notes on the Manners, Customs, and Condition of the North American Indians*, 2 vols. London, 1841; Reprint, Minneapolis, 1973.
- Catlin, George George Catlin: Letters and Notes on the North American Indians. Mooney, Michael Macdonald, 1930-, Editor. New York: Gramercy Books. 1995. 366 pp.
- Catlin, George. *Last Rambles Amongst the Indians of the Rocky Mountains and the Andes*. New York: D. Appleton and Co., 1867.
- Cohen, J. M., ed. *Introduction to Rousseau's Confessions*. Harmondsworth, 1953.
- Deloria, Vine Jr. *Red Earth, White Lies: Native Americans and the Myth of Scientific Fact*, New York: Simon & Schuster, 1995.
- Dippie, Brian W. *Catlin and His Contemporaries: The Politics of Patronage*. Lincoln & London: University of Nebraska Press, 1990.
- Ewers, John C. (John Canfield) "George Catlin, Painter of Indians of the West." IN Annual Report of the Board of Regents of the Smithsonian Institution for 1955. Washington, D.C.: Smithsonian Institution; 1956; pp. 483-528; 20 plates.
- Ewers, John C., ed. *O-Kee-Pa, a Religious Ceremony and Other Customs of the Mandans, by George Catlin*. New Haven, 1967.
- Ewers, John C. (John Canfield), 1909-1997  
Norman, Oklahoma: University of Oklahoma Press; 1968. 222 pp.
- Goetzmann, William H., 1930- and Goetzmann, William N. *The West of the Imagination*. New York: Norton; 1986. 458 pp.
- *George Catlin's "Indian Gallery": Views of the American West*, Richmond: Virginia Museum of Fine Arts, 1993.
- *George Catlin: The Printed Works*. Electronic Resource. University of Cincinnati Digital Press, 1998.

- Gunderson, Mary. *American Indian Cooking before 1500*. Mankato: Capstone Press, 2001.
- Haberly, Loyd. *Pursuit of the Horizon: Life of George Catlin Painter and Recorder of the American Indian*. New York: The Macmillan Company, 1948.
- Hassrick, Royal B. *The George Catlin Book of American Indians*, New York: Watson-Guptill Publications, 1977.
- Hollman, Clide. *Five Artists of the Old West: George Catlin, Karl Bodmer, Alfred Jacob Miller, Charles M. Russell, Frederic Remington*. New York: Hastings House Publishers, 1965.
- Mann, Donna. *George Catlin (1796-1872)*. Washington, D.C., 1992.
- McCracken, Harold. *George Catlin and the Old Frontier: A Biography and Picture Gallery of the Dean of Indian Painters*, New York: Bonanza Books, 1959.
- Millichap, Joseph. *George Catlin*. Boise, Idaho, 1977.
- Moore, Robert J. *Native Americans: A Portrait. The Art and Travels of Charles Bird King, George Catlin, and Karl Bodmer*, New York: Stewart, Tabori and Chang, 1997.
- Nassaney, Michael. *Interpretations of Native North American Life: Material Contributions to Ethnohistory*. 2000.
- National Gallery of Art. Home Page. <http://www.nga.gov/>
- National Museum of American Art. Home Page. <http://www.nmaasi.edu/>
- *Native North American Chronology*. ed. Duane Champagne & Michael A. Pare. New York, London: Gale Research Inc., 1995.
- Plain, Nancy. *The Man Who Painted Indians: George Catlin*. New York: Benchmark Books, Marshall Cavendish, 1977.
- Roehm, Marjorie Catlin, ed. *The Letters of George Catlin and His Family*. Berkeley and Los Angeles, 1966.
- Stewart, Brian, & Mervyn Cutten. *The Dictionary of Portrait Painters in Britain up to 1920*. England: Antique Collector's Club, 1988.
- Sufrin, Mark. *George Catlin: Painter of the Indian West*. New York: Atheneum, 1991.
- *The Telling of the World: Native American Stories and Art*. ed. W. S. Penn. New York: Stewart, Tabori and Chang.
- Troccoli, Joan Carpenter. *First Artist of the West: George Catlin Paintings and Watercolors: From the Collection of Gilcrease Museum*. Tulsa, Oklahoma: Gilcrease Museum; 1993. 176 pp.
- Truettner, William H. *The Natural Man Observed: A Study of Catlin's Indian Gallery*. Washington, D.C.: Smithsonian Institution Press, 1979.
- Waldman, Carl. *Atlas of the North American Indian*. Revised Edition. New York: Checkmark
- Warrior, Robert Allen. *Tribal Secrets: Recovering American Indian Intellectual Traditions*. Minneapolis: University of Minnesota Press, 1995.



*Os-ce-o-lá, the Black Drink, a Warrior of Great Distinction, 1838*  
Smithsonian American Art Museum. Gift of Mrs. Joseph Harrison, Jr.



*George Catlin* by William Fisk, 1849

National Portrait Gallery, Smithsonian Institution;  
gift of Miss May C. Kinney, Ernest C. Kinney, and Bradford Wickes, 1945